

ロータリー理解推進月間にあたって



パスト・ガバナー

戸田 孝
(八尾RC)

新年を迎え、ロータリアンの皆様のご健勝とご活躍をお祈りいたします。

- ① 楽しく活力あるクラブにするには、肩書き地位など心の鎧を脱いで、ポール・ハリスが自叙伝に書かれた“寛大で親しみあふれ、人様のためになりたいという「少年の心」”に戻ることです。みんなが初心に戻って語り合えば楽しい例会になるに違いありません。
- ② 温かい人柄になれる・・・ロータリアンとして歳月を重ねると、そこから受ける人間的温かさと愛情、これは私達がロータリーに尽くすより遥かに大きいものです。要は、ロータリーは楽しみながら仲間を愛す人間になる場なのです。
- ③ 奉仕の理想は「Thoughtfulness of and helpfulness to others」「他人に対する思いやりの心、助け合いの心」で、キリストの黄金律「汝、他人より与えられんと欲する全てを他に与えよ」の愛の心、孔子の「汝の欲せざるを他に施すことなかれ」の慈悲の心と同じ意味で、古来より人間社会に存在する高度の倫理観なのです。
- ④ ロータリーの真の姿はESSで表され、

「Enjoy楽しむ。Study学ぶ。Service奉仕する。」で、厳しい社会生活の中にあって、心を許しあう会員同士が毎週の例会で大いに楽しみ、互いに学び自分を高め、社会に奉仕する。このような過程を積み重ねて互いの人格、人間性を高めていく。トルストイの「他人のために生きる人は幸せである」に勇気づけられ力を合わせて人の為、世界の為に奉仕するロータリアンである幸せを感じようではないか。

- ⑤ ロータリーの綱領の本文にある“各自の職業を天職と心得、誠実に努力することが奉仕の原点であると信じ励んでこられた”ロータリアン各位に敬意を表し、変わらぬ献身を願うものです。
- ⑥ ロビンスRI会長は、「ロータリーの真価は、如何なる計画を实践したかよりも、そのクラブが如何なるロータリアンを育てたか、如何なる人作りをしたかのほうが大切なのである」と語っています。力を合せて人のお役に立ち、よき人材づくりに励みたいものであります。